

# 南京都病院ニュース

2015 秋号  
No.40

National Hospital Organization Minami Kyoto Hospital News

## 臨床研究部長あいさつ

神経内科 臨床研究部長 川村 和之



南京都病院に平成27年4月に設立された臨床研究部に、9月1日付で部長として就任いたしました。

まず自己紹介として、これまでの経歴を簡単にご紹介させていただきます。平成4年に京都大学医学部を卒業後、京都大学医学部神経内科に入局し、京都大学医学部附属病院と住友病院で4年間研修を積みました。その後、国立精神・神経センター（現国立精神・神経医療研究センター）神経研究所疾病研究第6部で多発性硬化症の研究を始め、この基礎研究に従事する日々は米国留学を含めて計10年に及びました。帰国後は金沢医科大学神経内科にて臨床とともに学生・研修医の教育にあたり、前任地となります国立病院機構徳島病院ではパーキンソン病リハビリテーション、筋萎縮性側索硬化症などの神経変性疾患の終末期医療を中心に診療にあたってきました。一つの道を極めるという道のりではありませんでしたが、基礎研究から教育・臨床、また免疫性神経疾患から神経変性疾患までというように幅広く経験を積むことができておりました。

南京都病院は国立病院機構の一員として、呼吸器科、神経内科、小児科を中心に肺結核、慢性呼吸不全、肺癌、神経難病、重症心身障害などの分野で独自性の強い高度な専門的医療を提供するとともに臨床研究をおこない、その成果を社会にむけて発信してきました。今回、その臨床研究の幅を広げ、さらに質の高いものに深化させていくために臨床研究部が設立されました。この目標を達成するために、臨床研究部が中心となって他の医療機関・研究機関との交流や研究機器の整備、看護師、検査技師、理学療法士、作業療法士などのコメディカルスタッフを対象とした勉強会、各職種間の交流をはかり、南京都病院全体としてより活発に臨床研究に取り組む環境を作っていきたいと考えています。また、病院独自の研究にとどまらずに、国立病院機構のネットワーク研究や新薬の治験など病院の枠をこえた臨床研究にも積極的に参加していきたいと思っております。地域の皆様により質の高い医療サービスを提供するとともに、日本の医療に対してもその発展に寄与していくことを目指して参ります。

臨床研究部が設立されたことで南京都病院がさらに発展したと皆様感じていただけるよう、精一杯努力して参りたいと考えています。よろしくお願いたします。

## 研修会「不整脈～心房細動と心房粗動」を開催しました

教育研修委員会  
副看護部長 白井 智子

今年度、当院の教育研修委員会では「循環器疾患の治療、看護の強化」を目標の一つに掲げ、4回シリーズでの研修会を計画しました。講師は国立循環器病研究センター 心臓血管内科部長(冠疾患担当)野口 暉夫先生です。私の前勤務先でもわかりやすい講義で大変好評な先生ですが、お忙しい中当院での講義を快く引き受けて下さいました。去る7月31日に第一回目を開催し、医師・看護師・コメディカルなど113名が参加しました。



初回は、不整脈の主要原因となる「心房細動」と「心房粗動」の講義でした。研修会前は、循環器疾患に対する苦手意識からか「理解できるかな…」という声も耳にしましたが、研修会後は「非常にわかりやすかった」「実際の心電図を利用しての見方やポイントなどが分かった」など、予想以上に循環器疾患に対する距離が縮まった印象を受けました。



実際の病棟においても、看護師が患者さんの病状変化を今まで以上に的確にとらえ、12誘導心電図撮影を実施するなど看護実践に活かしているところを見ると、開催した立場としてもやり甲斐を感じた一瞬でもありました。今後も「心不全」「冠疾患」「肺高血圧症」「末梢血管」などのテーマでの講義が続きます。意義ある研修にしていきたいと考えています。

## 緩和ケア認定看護師として

緩和ケア認定看護師 西病棟4階  
副看護師長 中西 藍

私は、3月に半年間の緩和ケア認定看護師教育課程を修了し、5月に認定試験を受け、七夕の日に合格発表があり、緩和ケア認定看護師に認定されました。長いようで短かった研修では、疾患や治療の理解はもちろんのこと、緩和ケアを必要とする患者さん・ご家族へのケアについて事例をもとに考え、実習で実践を行ってきました。

緩和ケアは、疾患を抱えた患者さん・ご家族の全人的苦痛を緩和し、QOLの維持、向上を目的としています。がん患者さんだけでなく、がん患者さん以外の方もあらゆる苦痛を抱えています。その苦痛を少しでも緩和できるように、学んだ知識とコミュニケーション技術を使い、患者さんたちのQOLの向上を目指し、実践していこうと思っています。しかし、私ひとりの力ではなかなか難しいのが現実です。病院の内外を問わず多職種の方々と連携して最善のケアを提供し、最後の時まで患者さんご家族が『その人らしく』生き抜くためのサポートをしていきたいと思っていますので、お気軽にお声をかけていただければと思います。



## 西病棟2階の紹介

西病棟2階  
看護師長 寺倉 智子



西病棟 2 階は、重症心身障害児（者）の方が入院しています。人工呼吸器や経管栄養管理を必要とする医療的ケアが中心の病棟です。患者さんやご家族の目線に立った安全・安心で質の高い看護を目指して取り組んでいる笑顔あふれる病棟です。日常生活のケアの中で、少しでも安定した生活が送れるように、痰を出しやすくするためのポジショニングや筋緊張を和らげるためのケアやリハビリを積極的に取り入れています。また、スキンケア・NST、ポジショニング、口腔ケアや摂食嚥下、5S（環境を考える）などの看護ケアチームを作り、管理栄養士や理学療法士・作業療法士など多職種と連携をとりながら専門性を活かしてケアの質の向上を図っています。

また、充実した入院生活が送れるように日々の療育の参加や毎月の誕生日会の開催、遠足への参加支援も行っています。学齢期の児童に対しては、体調を整え授業に参加できるように、隣接する京都府立城陽支援学校の先生や看護師の方と協力しています。短期入所の受け入れも行っており、特に医療的なケアを必要とする方を積極的に受け入れ、患者さん・ご家族が安心して在宅生活を送れるように支援をしています。

重症心身障害児（者）の方は、基礎疾患に合併する病態が多く、言葉によって痛みや苦痛を伝えることが困難であることが多いです。“いつもと何かが違う”と気付くために、平素から慎重な観察が大切です。ことばで表現できなくても、表情・顔色・脈拍・微細な身体や四肢の動き、また体の緊張も心を表していることもあります。その一つ一つの表現を大切に、それを蓄積して看護に繋げることが大切であると考えています。そして、重症心身障害児（者）自身が主体となり、人との関わりの中で彩りを添えた生活が提供できるように支援していきたいと思っています。



## 地域医療に力を傾けておられるみなさまをご紹介します

私たちは「敬愛の心・向上の心・和の心」を医療・介護で連携します

### コクラ医院 内科・小児科・呼吸器内科・消化器内科・リハビリテーション科・皮膚科・外科

院長 アルデリヤーヌ 恵 先生



外来診療は現在私以外に3名の医師と共に行っています。私は呼吸器内科を専攻していましたが、各医師の専門分野(消化器内科、高血圧・糖尿病・内分泌、外科・皮膚科・リハビリテーション)が加わり、より幅広い医療を提供できるよう協力し合って診療しています。

通院が困難な患者さん、ご自宅での療養を希望される患者さんには訪問診療を24時間365日体制で行っています。介護部門として、通所リハビリテーション(デイケア)、訪問リハビリテーション、訪問介護、小規模多機能型居宅介護「どんぐりの家」、居宅介護支援センターがあります。看護師、理学療法士、作業療法士、介護福祉士、ケアマネージャーが従事しており、様々な職種のスタッフが連携を取りながら協力し合い、より良い介護を提供するよう心がけています。城陽市で初めて喀痰吸引(人工呼吸装着者も含む)、経管栄養に対応できる認可を受けた介護福祉士が2名おり、在宅での介護をサポートさせて頂いています。今後も地域に根ざし、子供さんからお年寄りの方まで安心できる医療と介護を提供できるようスタッフ一同力を合わせてがんばっていきたく思います。

- 京都府城陽市久世下大谷18-111
- TEL 0774-52-2479
- FAX 0774-52-8822

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00~12:30	○	○	○	○	○	○	×
午後 5:00~7:30	○	○	×	○	×	×	×

- 休診日 日・祝、水・金・土の午後



きめ細やかに心を込めて在宅支援を行います

### 訪問看護ステーション うじがわ 訪問看護 居宅支援



訪問看護ステーションうじがわは、宇治川病院に併設し近鉄小倉駅の近くにあります。平成7年に開設され今日まで20年が経過して地域に密着した訪問看護を行っています。

利用される方々は、悪性疾患、難病、認知症、慢性疾患など様々です。

一人暮らしの高齢者の方、老々介護など様々なケースがありますが、その都度御本人、御家族様の意向を確認し主治医や医療、多職種との連携を行いきめ細かく対応しています。作業療法士も訪問看護ステーションから訪問に伺いリハビリを専門に行っています。居宅介護支援センターも併設し、介護保険を利用される方々の相談に応じています。介護と医療のニーズを併せ持つ方々の場合にも、より具体的に御本人、御家族様の意向に沿った介護保険サービスの連絡、調整を行い訪問看護を行います。訪問看護ステーションの職員は看護職5名、作業療法士1名、事務員1名で対応しています。居宅介護支援センターは介護支援専門員専任2名、兼任2名の計4名で行っています。

これからは地域で療養される方がふえてきます。利用者さんの心身の特性を踏まえてその意志を尊重し、生命の質の確保を重視して、健康管理、全体的な日常生活動作の維持、回復を図ります。人間として矜持ある生活を過ごしていただける様に、また充実した在宅療養が出来るように支援を行いたいと思っています。

- 宇治市小倉町老ノ木31
- TEL 0774-28-6720
- TEL/FAX 0774-20-7941
- 営業日・営業時間  
月~金 午前8:30~午後5:00  
土のみ午前中 午前8:30~12:30  
※(祝日・年末年始を除く)



## 神経難病について

神経内科  
臨床研究部長 川村 和之

筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病、多系統萎縮症、クロイツフェルト・ヤコブ病、多発性硬化症、重症筋無力症、慢性炎症性脱髄性多発神経炎。「神経難病」という言葉を聞いて、ここに列挙した疾患名のいくつかが皆さんの頭に浮かんできたことと思います。脳・脊髄・末梢神経・筋肉の病気の中で、原因不明あるいは有効な治療法がないものが神経難病と呼ばれています。神経難病では運動機能障害や認知機能障害が年単位で進行していくため、患者さん本人の精神的・肉体的苦痛はもちろん、患者さんを支えるご家族にも非常に大きな負担がかかります。人口の高齢化とともに神経難病の患者数は増加の一途をたどっており、より質の高い難病医療を提供することが社会から求められています。

その目的を実現するために、私たち神経内科医は日々の診療の中で、「患者のQOL(Quality of life, 生活の質)を向上させるために何ができるか」を考えることを大切にする必要があります。神経難病の患者さんの多くは、身体的問題として嚥下、呼吸、コミュニケーションに困難を伴っています。また、長期の闘病から生じる意欲低下、不安などの精神的・心理的問題や、就労や社会資源の利用など社会との関わりとの問題も抱えています。医師と看護師、リハビリテーションスタッフ、栄養士、医療ソーシャルワーカーが協力してチームとして対処することで、これらの問題を緩和し、患者さんの療養生活の快適度や満足度を改善していくことが可能となります。

質の高い難病医療に有効な治療法の確立が求められることに疑いの余地はありません。iPS細胞技術の確立に象徴されるように、近年の科学技術の進歩には目を見張るものがあります。これらの新しい技術を難病医療に応用するために全世界で精力的な研究がおこなわれています。神経難病に関連したものでは、ヒトiPS細胞をもちいて筋萎縮性側索硬化症の治療薬の候補となる化合物が同定されました。パーキンソン病では、平成30年度までにヒトiPS細胞の移植治療を開始することが計画されています。

このように、私たち医療者の取り組みと基礎研究の進展の結果もたらされる新しい治療法によって、近い将来、これまで「神経難病」とされていた疾患が難病でなくなっていく日がやってくることでしょう。

# 「ふれあい看護体験」開催の報告

教育担当師長 射手矢 朋子

平成27年7月29日(水)ふれあい看護体験を開催しました。

ふれあい看護体験は、『看護の日』の事業として、次世代を担う中高生が患者さんとのふれあいを通して、看護の道へと進むきっかけとなることを目的に行っています。

今年は看護の仕事に興味を持っている6名の高校生の参加がありました。午前中は看護演習(血圧・脈拍測定、救急蘇生等)を行い、午後からは病棟で看護師と一緒に足浴をしたり、患者さんとの会話を楽しみました。

参加者の笑顔に患者さんたちも「かわいい孫たちが来てくれたみたい。」と笑顔で応えていただきました。患者さんとのふれあいの後、参加者のみなさんは「看護師になりたい気持ちが強くなりました。」と言って体験を終えました。参加者を受け入れることで病棟看護師も新鮮な気持ちを思い出す機会になりました。今後もこの取り組みを継続し、看護のすばらしさを発信したいと思います。



参加者の皆さんと記念撮影



患者さんも笑顔でポーズ

足浴を体験

救急蘇生の演習

## 交通のご案内



- 近鉄京都線 新田辺から 京阪宇治バス約15分
- JR 学研都市線 京田辺から
- JR 奈良線 山城青谷から 徒歩 20分

各駅より送迎車あり

## 診療科のご案内

- 呼吸器科
  - 神経内科
  - 小児科
  - 内科
  - 外科
  - 消化器科
  - 呼吸器外科
  - 循環器科
  - 整形外科
  - 皮膚科
  - リハビリテーション科
  - 放射線科
  - 麻酔科
  - 歯科
  - 耳鼻いんこう科 (休診中)
- (入院患者のみ対象) (入院患者のみ対象)



独立行政法人国立病院機構

# 南京都病院

(当院は在宅療養あんしん病院に登録しています。詳しくはかかりつけ医にご相談ください)

〒610-0113 城陽市中芦原 11 番地  
TEL.0774-52-0065 FAX.0774-55-2765  
URL <http://mkyoto-hosp.jp/>

地域医療  
連携室

- ダイヤルイン 0774-52-0114 (内線 231)
- 直通 FAX 0774-58-0270
- E-mail [renkei@mkyoto.hosp.go.jp](mailto:renkei@mkyoto.hosp.go.jp)